ユーザー各位

この度は【オレ鮎＆秘伝ＳＨＯＰ】をご利用いただき有り難うございました。また、いつも秘伝ブログをご愛顧いただき重ねて御礼申し上げます。

以下にこの度お買上げいただいた秘伝ターボ Premier (プレミア) ＜DR＞の取扱い方のポイントをご案内申し上げます。ぜひご一読の上、参考にして下さい。Premier ＜DR＞がみなさんの楽しいワカサギ釣りのよき相棒となれる事を願ってやみません。今後とも宜しくお願い申し上げます。

秘伝ターボ Premier (プレミア) ＜DR＞の新しい機能

・Premier ＜DR＞のＤＲとは「ダブルリング」の略。これまでのシングル駆動リングを２重化し、非常に強力なトルクを発揮すると同時に、安定感のある巻き上げが可能となりました。
・電動本体とコントローラーを接続する電源ケーブルに、シリコン被膜ケーブルを採用し、接地性や取り回しの良さ、また寒冷時でもしなやかさをキープするなどの改良を施しました。
・本体塗装にはより高品質な塗装を繰返し行うことで、その美観とともに保持する際のノンスリップ性や手触り感の良さを実現しました。
・すべての加工工程を見直しました。その結果、スプール＆プーリーのマウント、本体上のガイドやオートストッパーなどの突起パーツの堅牢化と加工精度のアップにより、ユーザーの皆さんに長く「愛機」としてお使いいただける製品としてリニューアルいたしました。

秘伝ターボ Premier ＜DR＞お取扱い注意事項

１）穂先

●＜ご注意！＞最終仕上げ塗装から時間が経たずにお届けとなる場合あります。乾いているようでも平らな部分をベタッと触ると指紋がついたり汚れたりする事があります。到着後７２時間以上経過すると完全硬化しますので、それまでは穂先の根本両サイドをつまむようにして取り扱って下さい。●なお、お手もとに届いてから７２時間以内に実際に釣りをする事は特に問題ありません。●お送りした時のパイプに入れて管理をすると良いでしょう。●お手入れは特に必要ありませんが、もし汚れを取る際には、水を含んだ綿棒などで拭くようにしてください。●＜ご注意！＞特に先端部には注意が必要で、例えば、ティッシュなどで「手でつまんで前後するようなやり方」は折損する可能性がありますので行わないでください。「根本側から穂先方向に一方方向に拭きとる」ようにして下さい。●光沢感を与えたりキープしたい場合はクルマ用のワックスでクルマと同じような処理が出来ます。●＜裏技！＞バスやヘラブナ、ウグイなどの外道が掛かってしまった場合、竿と本体をライン方向に対し、おおよそ直角に構えてパワースイッチを押し続けます。秘伝のオートドラグ機構で次第に寄せる事が出来ます。

２）ＰＥラインの巻き取り方（ツマミ付きチチワの作成）

●ＰＥラインの先端を６～８cmほど二つ折りにし、先端から５～６mmの位置に８の字結びでコブを作ります。●次にその奥３～４cm位置にもうひとつ８の字結びをします。これでツマミのついたチチワが完成します。●大きな方の『わ』にラインを通してチチワにしてスプールにかけて巻き取ります。先に作った先端部の小さな『わ』を引けば簡単にチチワを外す事が出来ます。●スプールの前側のラインストッパーのあるミゾが糸巻き部分です。（穴の開いた後ろ側には巻かないで下さい）●巻き取ったあとのラインの先端側にも同じのツマミ付きチチワを作成します。●＜ご注意！＞秘伝ジョインターを使う場合などは、先端側のツマミ部の８の字結びにジョインターを引っかけて使いますから、ここは８の字結び（ないし固結び）を２回は行いコブを大きくするとすっぽ抜けを防ぐ事が出来ます。●＜ご注意！＞ジョインターの使い方は、ハリス止めのリング部分にコブをかけたら、必ずライン方向にだけ一方方向に引いてください。両方向に引くと糸が切れたり傷つけたりします。●弊社製への字仕掛けを使用する場合も同じく一方方向に引きますが、フロロラインはＰＥより弱いのでより丁寧に取り扱って下さい。

３）オートストッパーのための結びコブの作成

●ＰＥラインに結びコブを作ることで、秘伝式のオートストッパー機能を使用する事が出来ます。おすすめする方法は渓流や鮎釣りで使用する「毛糸目印」を使うやり方です。●お手もとの穂先の中で最も長いもの（Premier ＜DR＞で使用するもの）の先端から、本体上のオートストッパーの長さに余裕長（任意ですが、５～8cm程度）の位置に毛糸目印を縛りつけます。●７～８cmにカットした毛糸目印を固結び（一回結び）します。（この際、目印をあまり短くカットするとやりづらいので、最初は少し長めにカットして下さい）●次に出来た目印のコブの上をＰＥライン側でしばります。毛糸コブの上がきちんとしばられることを確認してください。●次に目印で、さらにもう一度ＰＥでしばりを行います。都合２回ずつしばることになります。目印の太さ＝コブの大きさと、多少個体差のあるオートストッパーのスキマの巾にもよりますが、大概は２回ずつでＯＫなはずです。（１回結びの際に２回くぐらせても良いでしょう）●次に、コブがほどけぬよう、コブだけに少しの瞬間接着剤をつけます。やり方はＰＥラインと目印を引きあって目印側を細く伸ばし、コブから少し先の目印のアマリ部分に「爪楊枝」で瞬間をつけます。●接着剤の容器で直接つけようとすると液剤が出過ぎて失敗することがありますから、慣れないうちはビニールの上などに瞬間液剤を１～２滴とり、それを爪楊枝でつけて行う方法が安全です。コブの根本部分が接着剤で固定されていれば良いので、コブに多く付けすぎないようにすることが大事です。理由は、コブを固く大きくすると落下の時にガイドに引っかかったりして面倒な事と、あまりの目印糸部分を出来るだけぎりぎりにカットしたいためです。●ストップ用のコブが出来上がったら、実際に電動・穂先に通し、オモリをつけ、出来るだけゆっくりしたスピードできちんと止まるかテストしてください。次第に通常のスピードに近づけてテストしてください。●＜裏技！＞爆釣時にオートストッパーを使わない裏技。このコブをいちいちオートストッパーまで巻き上げず、穂先の直前ないし途中で止めるようにすると、ガイドに引っかかってタイムロスする事なく、はるかに「落ちがスムーズ」になり、手返しがよくなります。爆釣時には上げ下げのワンサイクルを数秒でも早く対処できるよう、ぜひ訓練してみて下さい。他を圧倒する重要なテクニックとなる事でしょう。

４）コントローラー

●コントローラー後部にキザミがあります。ここに指先を当ててフタを開けられます。水対策でかなりきつめのフタとなっていますので、開けづらい時はマイナスドライバーの先などで丁寧にこじってみてください。●電池は内蔵していませんので、別途単三電池を６本単位でご用意下さい。（予備電池もお忘れなきよう）●電池交換時、古い電池との混在は電力消費が大きくなりますので、全てをまとめて交換するようにして下さい。●電池交換の際は内部部品に負荷のかからぬよう、ていねいなお取扱いをお願い致します。●ボリュームは右に回せばスピードアップです。●ボリュームの目印を任意の位置で使用したい場合、ボリュームのノブは簡単に抜き取る事が出来ますのでお好きな位置に差し直して下さい。●比較的安定した電源として、かつ長い目で見ればコスト的にも安い「サンヨー・エネループ単三」を推奨いたします。●ちなみに別売の１２Ｖバッテリー電源を使用すると、さらにズ太く、安定したパワーを実感する事が出来ます。●コントローラーは電子部品ですから、水没させたり、水に直接触れさせないようご注意下さい。●＜重要！＞外部電源１２Ｖと内蔵電池の併用はしないで下さい。もし内部の単三電池を予備とされる場合は電池ホルダーからクリップを外しておいてください。また、外したクリップの端子がその他の部品に接触などして短絡（ショート）しないよう充分お気をつけ下さい。●＜重要！＞使用後、ボリューム位置は最小にしておくようにしておくと、次回の使用時に、不意に急激なパワーで発生するトラブルやうっかりミスを避ける事が出来ます。

５）竿置き台・クリスタルスタンドのセッティング

●同梱のクリスタルスタンドのパーツをセットして釣りの準備をして下さい。●小物袋に同梱されているのは「竿受けのツノ」、「ワッシャー大」、「スプリングワッシャー小」、「ノブ」の４種です。●ノブボルトに、スプリングワッシャー小 → ワッシャー大 → ツノの順にで、しっかりツノを固定してください。●ツノは後方に倒れている形が正常です。●セットが完了したら、竿置き台が水平位置で、Premier ＜DR＞本体が、少し前傾姿勢になるようにして下さい。２°～３°程度の傾きで充分です。前傾姿勢を保つ事でフリーにした場合、オモリが確実に落下して行きます。●竿置き台の高さは１０数センチの調整が出来ます。●左右（水平方

向）は３６０度回転させる事が出来ます。各部分の蝶ネジツマミでお好きなように調整して下さい。●後方の本体受け部の「２本のツノ」はノブボルト部で若干上下出来ます。またツノ自身を折り曲げる事で高さや受け幅の調整を行う事も出来ます。●＜重要！＞通常、Premier ＜DR＞を使用する場合、誘ったら前脚２本（つっぱり君）は台の上、本体後方がツノの上に置かれます。ツノの巾を丁度よい具合にセットして下さい。●メインスイッチの反対側にあるＡＷＳ（自動巻き上げスイッチ）を使用してオートで巻き上げる場合に、本体の後方を軽くツノの間に押し込むことで安定した姿勢でハンズフリーで巻き上げが可能となります。●ＡＷＳを使用して巻き上げた後、すぐにスイッチをオフにすることをお忘れなきよう。●ドーム船で席を離れる時やボート釣りでの移動の際には、必ず本体を深めにツノに押し込んで固定しておくことをお奨めします。●＜重要！＞特にW電動の使用時、この軽く押さえ込んで自動巻き上げするテクと、さらにノーマルとターボスピードを併用することで、巻き上げのタイミングを計り、リズミカルに左右交互に釣り上げて釣果を増やす事が可能になります。●出荷時には、竿置き台は「木製のベース」に取り付けられています。同梱のＣクランプ（７５ミリ巾）と取り換えてボートや桟橋の桟などに確実に固定する事が出来ます。●＜裏技！＞クリスタイル台を前後に傾ける事で多少の巾の棚アワセを瞬時に行う事が出来ます。特にベタ底が効くエリアでは有効です。

６）本体とプラマイ君、プーリーの回転方向・左右の使い分けの方法（重要！）

●Premier ＜DR＞の出荷時設定は、右手で把持、親指でメインスイッチ操作、本体右側にスプール＆プーリー、プーリーの回転方向は「右外方向へ回転」です。●＜重要！＞秘伝の本体は、モーターを内蔵しスプール＆プーリーを搭載する本体部分と、穂先を差し込む穂先ホルダー部（脚＝つっぱり君のついている部分）の二つで構成されています。この主要パーツ２種は切り離して外したり、穂先フォルダーを回転させたりする事が出来ます。筐体が円形である事、そして穂先部分と本体部分が切り離せる事で、様々なセッティングが可能になりますので、初めは多少複雑かも知れませんが、電動を手に持ちながら以下の説明をお読みくださり、よく理解してからお使いください。●また、本体の上には上下に１個ずつ、２個のガイドがある事を確認しておいてください。●出荷時は右手用、スプールは右外回り、ということは、基本、ごく普通の「表ガイド穂先」を使用する事を前提としています。この場合、スプールから出たラインは、本体の上側のガイドに入り、直角（Ｌ字型）に方向を変え、オートストッパーを通り、穂先方面へというライン経路となります。これが最もスタンダードなセッティング方法で、秘伝竹穂先のアイスブラック＜Type-ＧＸ＞や＜Type-ＧＳ＞などの表ガイド穂先を使う場合はこのやり方になります。●次に、左手で使用する場合、基本の左手親指でメインスイッチを操作する場合には、まず穂先ホルダーを１８０度回転させ、メインスイッチが内側、スプール＆プーリーが本体左側にくるようにします。このままスイッチＯＮするとスプールは右回転のままで、ラインが本体下側に回り込む形となり、本体に触れてしまったりしますので、ここで「プラマイ君」（位相変換ケーブル）を使用します。●＜重要！＞プラマイ君をコントローラーに差し込み、さらにプラマイ君のメス側に本体からのケーブルジャックを差し込みます。これで左外回転となって使用する事が出来るようになります。●ちなみに、ユーザーによっては、メインスイッチを親指操作ではなく、人さし指で行いたいという方もおられるので、そういうケースでは上で述べた事はすべて左右が反対ということになります。このへんからさらに難しくなってきますのでご注意下さい。

●「総裏ガイド穂先の使用」の場合の説明です。Premier ＜DR＞の本体上には表裏に２つのガイドがあります。再度ご確認下さい。以下の説明は、右手で把持、メインスイッチを右手親指で操作する場合で説明します。●＜重要！＞出荷時設定では、右手用、表ガイド穂先使用、右外回りとしていますが、総裏ガイド穂先を使用する場合は、裏側にあるガイドへ直接ラインが行き、そこから穂先方面へとなります。この際、出荷時の右外回りではラインが本体にこすれてしまう事になりますので「プラマイ君」を使用して、プーリーが左回りになるようにして下さい。これで右手で総裏ガイド穂先を下→下→下の経路で使用する事が出来ます。●左手で総裏ガイド穂先を使用する場合はプラマイ君は不要になります。●表ガイドの穂先の場合、プラマイ君は必要です。●また、への字アダプター「キリンの首」と併用する場合、通常とは逆にキリンについているガイドを真下に位置させ、そのまま前側に折り曲げる事になります。（簡単に言えば「さば折り」状態です）この場合はキリンのガイドにラインを通すことが出来ます。●この時にキリンのガイドにラインを通さず、本体から直接穂先の一番手前のガイドに通す事も出来ます。この方法が最も落下速度が速くなります。ただし本体ガイドから総裏ガイド穂先の一番手前のガイドへショートカットするのでキリンの折り曲げ角度によってはラインが竿置き台の先端部に触れる事があるため注意が必要です。このショートカットの場合は本体・ラインと台の先端部の確認をしてください。●＜裏技！＞キリンのセッティングによる裏技的使用法。上記の説明では、総

裏ガイド穂先を使用する場合、プーリーからの経路は下→下→下でしたが、これを上→横→下に変更する事が出来ます。これはプーリーのセッティングは表ガイドと同じで右外回り、本体上ガイド、という形です（プラマイ君不要）。キリンのセッティングが異なります。キリンの上のガイドが、真横（右側でも左側でもＯＫ）に来るようにして、そこから前方に折り曲げます。つまり、これが「横」ということです。ここから総裏ガイド穂先の裏側にラインが出て行く事になります。この場合のメリットは、表で棚止めストッパーの調整を行う方が裏側にある場合より簡便であること、デメリットとしては、総裏ガイドの場合より抵抗が増えるため、軽オモリでは落下速度が若干遅くなることです。

７）本体・ケーブルの取り回し、しまい方、メンテナンス

●電動秘伝シリーズは全て外部電源ですから他社製の電動と比較すると極めて軽量です。ケーブルでコントローラーとつながっているのでケーブルは「命綱の役目」も果たしています。ただし、軽量化のためケーブルは極限まで細いものを使用していますから取扱いにはくれぐれもご注意下さい。●ケーブルを踏んだり、挟んだりしないようご注意下さい。●＜重要！＞ケーブルを「一方方向のぐるぐる巻き」で仕舞うことは絶対にしないでください。「ぐるぐる巻き」をすると細いケーブルなのでケーブル自体に「撚り」がかかり内部の電線が断線する恐れがあります。またケーブル形状もゴツゴツになり不具合が生じることがあります。●使用後はケーブルを本体に添わせるようにして本体と同じ長さ程度に「折り畳む」ようにしてから、ケーブルに付属のマジックテープで本体に固定してください。●＜重要！＞釣り初めの時、初めにケーブルの曲がりを直すため「しごく」ようにして下さい。この際、本体との連結部に負荷が加わらぬよう注意して下さい。●＜裏技！＞釣りの最中にケーブルが邪魔に感じる場合、本体から３０～５０cmのあたりにゴムヒモ（輪ゴムを連結したようなものでもＯＫ）を設置して、斜め後方からケーブルが適度に引かれるようにするとスッキリした操作ができます。（斜め後方にゴムの押さえ的なものが必要です）

●掛かった魚の処理方法にもよりますが、手で魚を握って外す方の場合、長時間使用していると次第にＯリングとプーリー（Ｏリングで回転する土台パーツ）の溝に、魚の油脂やウロコなどが付着して「スベリ」が発生し、巻き上げにくくなる事があります。この場合はＯリングとプーリーを外し中性洗剤などで洗って下さい。●プーリーの溝は歯ブラシなどで汚れを落としてください。いずれも下水に流したりしないようご注意下さい。●＜重要！＞スプール＆プーリーのマウント順序。根本側から、スペーサーＡ、プーリー、プーリー止めの短い方のゴム、スプール、スペーサーＢ、スプール止めの長い方のゴム。●スペーサーはＡＢとも凸部が根本方向に向かせて下さい。●Ｏリングは高品質なものを使用していますので、２～３年程度では劣化しないと思いますが、オフシーズン中はプーリーから外しておくと良いでしょう。●回転中に指先が触れるなどして、Ｏリングがモーター軸から外れる事があります。この場合やメンテナンスの際には、穂先フォルダーを外し、本体上の穴からピンセットでＯリングをセットしてください。ピンセットは釣行時にも携帯する事をお奨めいたします。●＜重要！＞Ｏリング（駆動用ゴムリング）の２種の径の使用法　付属パーツセットの中には、白い予備Ｏリングの「大と小」が各１個が入っています。出荷時の電動本体にセットされているものは大です。小は径が小さい分、本体にセットすると強めのテンションがかかります。これは釣りのテクニックでは、半フカセ、フカセ釣り、荒天時のタナ調整などに有効です。

●＜重要！＞回転部やＰＥライン、モーターなどに潤滑剤などを使用しないでください。秘伝電動の駆動系パーツは高品質なパーツを採用しているので潤滑剤の類いは一切不要です。むしろ使用する事でトラブルが発生するケースがあります。●センターシャフトの清掃はパーツを取り外しテッシュなどで軽く拭く程度で充分です。シーズン中、１～２回行って下さい。

●本体にウロコがついた場合はなるべく早いうちに取り除いて下さい。時間が経過するとはがしづらくなります。熱い蒸しタオルなどで拭いても良いでしょう。本体の塗装は特殊処理をを行っているため、多少の温度では変色や劣化は起こりません。●また、本体はクルマ用のワックスでクルマ同様の磨き処理が出来ます。細かい目のコンパウンドなどで磨くとさらに輝きが増します。回転部分にワックスが付着しないようご注意下さい。電動自体を清浄に保つ事で次回の釣行時に気持ちよくスタートでき、入れ掛かりまちがいないでしょう。●＜裏技！＞電動他を魚のウロコで汚さないよう「片手外し」を体得することをお奨めいたします。鉤の軸を親指と中指の先端でつまみ、人さし指で魚の頭をプッシュすると簡単に外れます。下あごに掛かった場合は、指先でアゴを切るようにします。慣れれば簡単に外す事が出来るようになります。●いずれの場合でもタオルを準備し、こまめに手を拭く事で電動本体を魚の油脂、ウロコの汚れから防ぐ事が出来ます。

８）保証規定

●保証対象は電動リール本体とコントローラーです。●いずれもご購入後１年間が保証対象期間となります。この期間中、通常の使用中に発生した故障は無償で修理いたします。●ご購入後９０日以内の不良発生の場合は、修理品の送付にかかる運賃などはすべて弊社が負担いたします。●それ以降の補償期間内の修理依頼時の送料はご負担下さい。修理後の返送送料は弊社が負担いたします。●通常の一般的な使用以外の、極端な水濡れや水没、その他に起因する修理や部品交換などにつきましては有償で修理を承る場合があります。●保証期間を過ぎた場合は多くの場合、有償での修理となります。●修理品をお預かりした後、費用や修理スケジュールやをメールでお知らせいたします。多くの場合、高額な修理代とならぬよう努力して参りますのでご安心の上、ご相談下さい。●穂先の折損などは、完全に元通りとはいきませんが、ほとんど場合、修理が可能です。通常１件￥1,000程度で修理するようにしています。（送料別）●その他、予期せぬトラブルの場合などでも、誠意を持って対処して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

お問い合せ・ご質問は、いつでも、お気軽に、メールにて。

【ワカサギ秘伝】
APS inc.　〒370-0124　群馬県伊勢崎市境５４９番地
メール：k-makoto@mail.wind.ne.jp